名古屋市民の皆さん

徳山ダム導水路から

今こそ 撤退しましょう

河村市長の突然の「方針転換」

今年２月、河村名古屋市長は、これまでの名古屋市のダムによる水資源確保は、過大で誤りであったことを認めながら、突然、徳山ダムの水を活用する「新用途」を提案し、徳山ダム導水路（木曽川水系連絡導水路）事業を容認する方針転換を発表しました。

無駄に無駄を重ねる徳山ダム導水路

徳山ダム建設は、水需要が減少に向かっている2000年に着工されました。名古屋市水道は1975年に需要のピークを記録して以後、下降をたどり、今日ピーク時の約３分の２にまで減っています。名古屋市は、２度にわたる部分撤退で徳山ダムに係る水利権を毎秒6.0m^{3}を毎秒1.7m^{3}にまで減らしました。木曽川の水源で十分だからです。100年に１度あるかないかの平成６年（1994年）の大渇水でも名古屋市は、「断 水」もなく大丈夫でした。

揖斐川から導水する必要性は、将来も全くありません。徳山ダム建設投資が無駄であったように、導水路建設投資はさらに無駄を重ねるものです。

「堀川浄化」と徳山ダム導水路は関係ありません

「堀川浄化」導水は、木曽川の未利用水で可能です。

「堀川浄化」の新提案は、徳山ダム導水路容認の理由付けができない苦し紛れに出されたものです。市民の堀川を愛する「熱い願い」を利用した目眩ましの提案です。

水道水源を河川浄化に使用できるなら、今すぐにでも名古屋市水道の木曽川の未利用水を使えば、徳山ダム導水路は必要ありません。

導水路はいらない！愛知の会
長良川市民学習会
徳山ダム建設中止を求める会
（連絡先）090－3445－5913　加藤

2023/5/1

木曽川水系連絡導水路とは

徳山ダムに貯められた水を、直径約４m延長約 43ｋmの水路で木曽川に導水するもので、「徳山ダム導水路」とも言います。途中、一部が岐阜市内で放流され、右図のように下流で、木曽川に導水されます。

事業の目的として次の二つがあげられています。

①流水の正常な機能の維持

1994 年（平成６年）に起こったような大渇水にも、河川環境が守られる水量を流すというものです。

具体的には、木曽川でヤマトシジミが生存できる毎秒 40m^3 を木曽川大堰下流で確保するものとしていますが、科学的根拠は全くありません。長良川河口堰を建設しヤマトシジミ漁を壊滅させてしまった国や水資源機構の言い分には呆れます。

「流水の正常な機能の維持」という目的は、1997 年名古屋市が返上した毎秒３m^3（約 60 万人分の給水量）の水利権の引き取り手がなく困った挙句の果てに「作り上げた」ものです。それを国民にツケ（税金）をまわしたのが徳山ダム事業の歴史の真実です。

②新規利水の供給

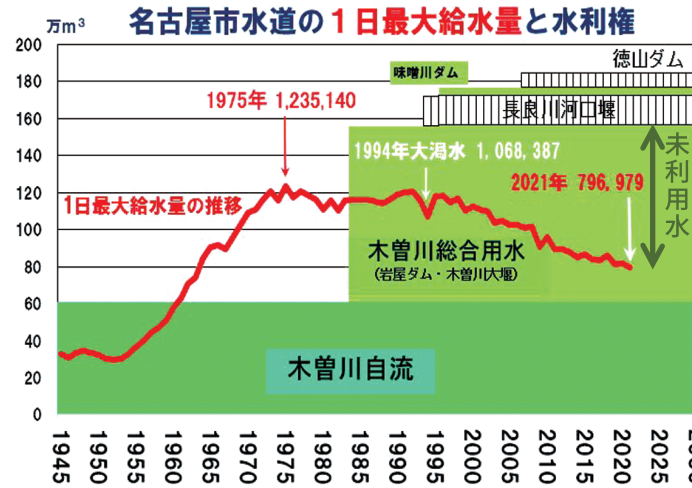
徳山ダムの水を新規利水として導水するというものです。名古屋市は上水道に毎秒 1.0m^3、工業用水に毎秒 0.7m^3 導水する計画ですが、木曽川に大量の未利用水を抱えているので、揖斐川からの導水は不要です。

名古屋市水道は、高度経済成長にあわせて、岩屋ダム・木曽川大堰、長良川河口堰、味噌川ダム、徳山ダム建設と次々水資源開発事業に参画してきました。

しかし、経済成長の鈍化と節水志向の進行で給水量は 1975 年をピークに下降しました。1995 年に運用を開始した長良川河口堰の水を名古屋市は、１滴も使っていませんし、将来使う必要もありません。

現在、一日最大給水量約 80 万m^3 に対し、河口堰と徳山ダムをのぞいた木曽川の未利用水は、１日約 80 万m^3 となっています。

徳山ダムの水は要らない！



今こそ「導水路」撤退！

市長就任間もない河村氏は 2009 年に、「導水路撤退」を表明しました。市民もこの表明を歓迎。当時のマスコミの世論調査でも８割の名古屋市民が導水路撤退を支持しました。ところが、市長はその後は沈黙。撤退の行政手続きをしませんでした。「撤退すれば、負担が増える」という法的に根拠がない議論の揺さぶりに怯んで「導水路問題」を棚ざらしにしたのでした。

導水路工事は未着工です。今、法の「撤退ルール」にそって撤退すれば、ゼロに近い負担で済みます。

ところが、今回の「方針転換」では、徳山ダムの建設と 100 年にわたる維持管理費に負担する「約 700 億円がもったいない」。何とかして徳山ダムを「活用したい」との一念から、「木曽川の水が使えなくなったら」というありえないリスクを「作り上げ」て、新たに約 50 億円をかけて名古屋市独自で木曽川の下を通すトンネル工事を行い、導水路を犬山取水場に直接つなぐというのです。これでは先行の事業投資に失敗したワンマン社長が、それを悔やみそれをとり戻すためにさらに新たな事業に投資して泥沼に陥り、会社の経営破綻を招くようなものです。

名古屋市民は、今、導水路建設を前に３つの選択が迫られています。**あなたは、どうする？**

1 現計画で継続	2 今すぐ撤退	3 名古屋市の新提案
導水路負担金 82 億円	未着工なので ほぼ０円	導水路負担金 ＋新たな工事費 約130 億円

＊導水路負担金額 82 億円は、15 年前に出された数字。着工すれば倍にも膨れ上がるのがダム事業の常識。

環境都市名古屋の水道が目指すこと　100 年後を見据えて

現在、名古屋市の給水人口は減っていないにもかかわらず、給水量は減少の一途をたどっています。業務用の減少と節水型社会の進行があるからです。行政の予測でも、今後、人口減少は確実に起こります。100 年後には半減！このままでは、水道料金は、２倍３倍に上がります。100 年後を見据えたとき、コンパクトでリスクに強い水道事業を目指さなければなりません。

施設の建設・拡大ではなく、老朽施設の改善に力を集中するときです。また、心配される大地震・気候変動などに備え 100 年後を見据えて、水源地域の森林保全などで水の「安心・安全」を高め流域治水に貢献することです。

名古屋市工業用水は、導水路計画では、長良川経由ルートで大治浄水場に至る原水確保となっています。長良川鵜飼の直上流で放流するこの計画には、岐阜市民をはじめとする多くの人々が、世界農業遺産「清流長良川のアユ」へのダメージを心配し猛反対をしています。現在、名古屋市工業用水の原水は、ほとんど大治浄水場（上水道）の「作業排水」です。つまり間接的に木曽川の水を使っているのです。ですから上水道の木曽川の未利用水を工業用水に切り替える「水利転用」手続きと大治浄水場内でのバルブ操作をするだけで、徳山ダム導水路は不要となります。

工業用水も導水路撤退！　名古屋市は、清流長良川の環境悪化の加害者になってはいけません。

©DESIGNALIKIE